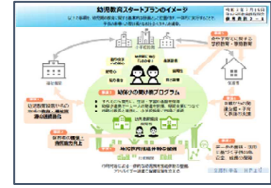


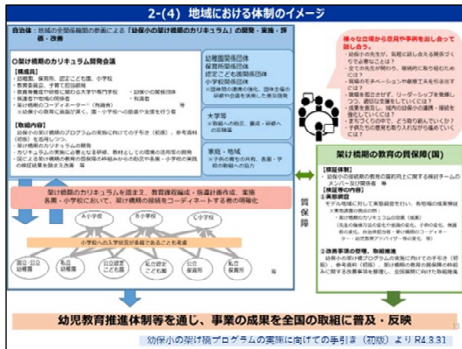
学びと育ちをつなぐ

令和5年3月
高知県教育委員会発行

令和4年3月31日に「幼保小の架け橋プログラムの実施に向けての手引き(初版)」(以後手引き)が文部科学省より示されて1年が経過しようとしています。令和4年度の高知県保幼小連携・接続アンケート調査では、コロナ禍の影響もあると思われますが、職員同士の交流はあるものの、形式的な引継ぎで終わっていることや保幼と小が「子供の学びをつなぐ」という視点での交流が少ないことが分かっています。「幼保小の架け橋プログラム」は、子供に関わる大人が立場を越えて連携し、5歳児から1年生の架け橋期にふさわしい主体的・対話的で深い学びの実現を図り、一人一人の多様性に配慮した上ですべての子供に学びや生活の基盤を育むことをめざすものです。行政、幼児教育施設、小学校がその地域のめざす子供像を共有し、「学びをつなぐ」ことが求められています。



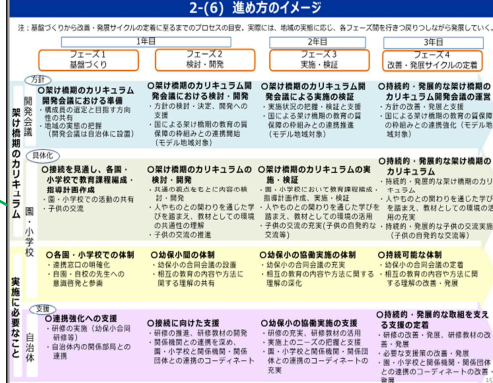
【図1】



取組を進めるためには、「体制づくり」が大切です。高知県ではまず、モデル地域で「カリキュラム開発委員会」を立ち上げ「手引き」に示されている方向性や内容に沿って議論を進めています。

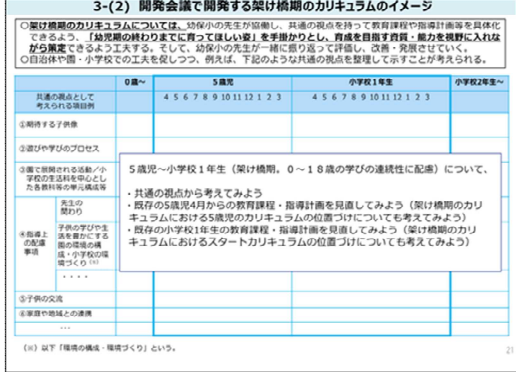


【図2】



「進め方のイメージ」では、それぞれの立場の者がどのように取組を進めていくとよいかのイメージが示されています。今どの段階かを確認しながら進めることができます。

【図3】



これまで、別々に作成されることが多かった5歳児のカリキュラムと1年生のカリキュラムを「学びをつなぐ」という視点で互いの教育・保育を語りながら作成していくことが望めます。



国から示された「幼保小の架け橋プログラムの実施に向けての手引き(初版)」やその説明動画はご覧になりましたか。文部科学省のホームページには「手引き」の解説や具体的な取組方が短い動画で紹介されています。また、高知県では、令和5年度保幼小連携・接続に係る研修を開催します。保幼小連携・接続は保幼小連携・接続の担当者や5歳児と1年生に直接関わる者だけの取組ではありません。0歳から18歳までの資質・能力をつなぐためには、全教職員、組織で取り組んでいくことが大切です。動画や研修の機会を活用し、国の動向などを全教職員で共有し、取組を進めていきましょう。

研修については、
当課(821-4881)又は
教育センター
(866-3894)に
お問い合わせください。

文部科学省HP
「架け橋プログラム
について」はこちら



図1～3 「幼保小の架け橋プログラムの実施に向けての手引き(初版)」より